伝統的工芸品産業事業者の魅力を伝える知的資産経営報告書

～伝統的工芸品産業事業者の魅力とそれを支える知的資産を明らかにする～

ぬり工房楽（らく）は、千年受け継がれた「木心乾漆」に習い、
独自の技術で造形する練乾漆の製品と、本堅地の輪島塗を
製造しています。
能登半島の自然をモチーフとした練乾漆はたいへん丈夫。
気候の異なる外国に持っていっても安心です。
各種漆器や香合、家具、オーナメントの製品から修理まで、
輪島塗の職人が、
お客様の様々なご用命にお応えします。

ぬり工房　楽

Lacquer, Japan LaQue

2011年9月発行

INDEX

1. 当社の代表製品 …… 1
2. 当社の概要 …… 2
3. 伝統的工芸品産業の歴史や当社のこだわり …… 3
4. 当社が提供する価値とそれを支える知的資産 …… 4
5. これからの挑戦 …… 5
6. 代表者からのメッセージ …… 5
7. 作成支援士業コメント …… 6
8. 知的資産経営報告書とは …… 7

1．当社の代表製品

2．当社の概要

■ 経営理念

楽しい漆で子ども達に誇れる故郷を残したい

■ 当社の特長

- **麻布を素地に立体的に造形、どんなものでも作ることが可能**
  漆器の形状は木地に依存しています。しかし、当社が開発した練乾漆ではこの制限が緩く、自由に造形することができます。写真からこんなものを作ってほしいそんな要望にお応えします。
- **様々な修理に対応**
  輪島では、昔から漆器の修繕を行ってきました。当社は、練乾漆を活用し、漆器の修繕はもちろんお神輿や獅子頭等の大きいものまで修繕を受け付けております。
- **修繕にとどまらないリメイク漆器**
  当社の練乾漆を活用することで、漆器の修繕はもちろん、リメイクも対応しています（椀の蓋をつわぶきの葉皿にリメイク）。

■ 当社のビジネスモデル

■ 企業概要

【代表者】 引持　力雄
【住所】　 石川県輪島市三井町市の坂二-59
【業種】　 輪島塗・練乾漆
【従業員数】 4名
【URL】 http://www.rakukobo.net/

■ 沿革

昭和58年：引持力雄が当社を創業する
平成2年：商号を輪島塗ぬり工房楽LaQueとする
平成2年：問屋売りを停止し、直接販売に切り替えを行う
平成6年：練乾漆を始める
平成21年：引持力雄が輪島上塗組合長を務める
平成22年：伊勢神宮奉納の楽太鼓と飾枠を製作

■ 連絡先

TEL　：0768-26-1346
FAX　：0768-26-1346
E-Mail　：raku@ca1.wannet.jp
担当者：引持　玉緒

■ アクセス

３．伝統的工芸品産業の歴史や当社のこだわり

起源や歴史

室町時代にほぼ現在と同じ、漆塗り技法を確立。
江戸時代半ばには、輪島市内から産出される珪藻土を焼成粉末した「地の粉」を使った技法を確立しています。
「椀講」「頼母子の漆器版」*1の販売手法で全国への販売を伸ばしていました。

隠れた（見えにくい）技術

九層もの塗膜

本堅地技法で作られた漆器の塗装断面は何と片面九層です。九層もの塗膜が漆器を丈夫にし、修理も可能にしています。

あらかじめ強度の低い部分を補強

あらかじめ漆器の欠けやすい部分に、麻や綿布を漆と米糊にて漆布着せを行い漆器の強度を高めています。

（表面に）現れた技術

埃など一切ない美しい鏡のような表面

上塗り工房内は、ゴミ、埃を嫌うため上塗り職人さんは服装や戸の開閉にも気を使っております。上塗りの後、呂色という工程で、漆器の表面を研磨し、また生漆を刷り込むことを繰り返します。これにより、漆の表面は、物が映るほど鏡のようになります。

美しい加飾

塗りの堅牢さを背景とし、蒔絵や沈金の美しい加飾も大きな特徴であります。

伝統的工芸品産業

輪島塗

本堅地法とよばれる工法が生み出す「優美さと堅牢さ」の漆器。
六職といわれる分業体制が確立し、徹底した品質管理と量産体制（100コ単位）を整えています。
輪島塗の職人は、親方のもとで修行をして一人前になることを年季明けというなど、厳しい修行でも知られています。

＊1　全国各地に輪島塗購入の積み金を行うグループを作り、そのお金でまとまった漆器を購入する仕組み

■　当社のこだわり

4．当社が提供する価値とそれを支える知的資産

■ 当社のこだわりはなぜ形成されたの？（**過去から現在の価値創造のストーリー**）

独自技術の練乾漆技法	一貫生産体制	お客様との直販体制
代表は漆器の形は木地に依存するためなかなか差別化しにくいことを問題に考えておりました。その頃香合専門の純乾漆の職人が当社に入社いたしました。代表は、種々検討を重ねた結果、純乾漆の技術を活用し、どんな形でも造形できる練乾漆技法を確立しました。この技法を活用することで当社は、写真1枚から麻布を素地に立体に造形できるようになり、どんな形でも作ることができるようになりました。	当社は1つ1つの商品に責任を持っていきたいと考えております。分業体制を基本とする輪島塗において、職人が工程ではなく商品そのものに責任意識を持つことはなかなか困難であります。当社は、その目的を達成するため、一貫生産体制を確立いたしました。 具体的には、代表は下地と上塗りの年季明けの職人であることから素地を練乾漆技法で製作することにより、素地から上塗りまでの一貫生産体制を確立することができました。	当社は、1つ1つ丁寧に商品を創り出している関係上どうしてもある程度の製造コストを必要としております。しかし、お客様から頂くお代は適正価格で抑えたい。そんな思いから当社は直販の道を選びました。当社のようなメーカーが直販を行うことは非常にリスクがあります。そこで当社は、石川県産業創出支援機構等の中小企業支援機関の支援をいただきながら徐々に販路を拡大し、直販体制を形成することができました。

■ 当社のこだわりはどのような人や仕組みで支えられているの？

【提供する顧客価値】
こんなものが漆の商品としてほしいという思いを熟練の職人が実現する

当社は、独自に開発した練乾漆を活用し、写真1枚からいろいろな形の漆を作ることができます。この当社の価値は、下地・上塗を年季明けし、自ら開発した練乾漆で素地を作る代表なしには提供することはできません。また、当社自らが、商品を大阪で定期的に発信し周知することや大阪の柏屋さんや兵庫の子孫さんで当社の商品をお使いいただけるなど、当社商品を知っていただき使っていただく仕組みも欠かせません。そして何より、当社がどのような思いで商品を創り出しているのかお客様に直接発信できる直販の仕組みは非常に大切です。さらに今後の商品開発にためには、異業種ネットワークによる新たな発想や連携も欠かせません。当社の提供している価値は、これら1つ1つの積み重ねによって支えられているといえます。

5．これからの挑戦

■ 当社は常に進化します。（**未来の価値創造のストーリー**）

漆をもっと身近に

漆を実際に持ったことがある人は漆の暖かさ、気持ちの良さを感じていただくことができます。人の表情は実際に手に取っていただくと必ずと言っていいほど和らぎます。しかし、漆は取扱いが面倒、傷つきやすい等の先入観から実際に手に取ったことがある人は多くございません。お客様も職人を相手にすると少し気が張ってしまいます。代表の配偶者である引持玉緒は、展示会等お客様と直接お会いできる機会をできる限り増やし、職人ではない強みを活かし、漆への敷居を下げ、できる限り多くの方に漆を手に取っていただく努力を行います。そして、引持玉緒がその時のお客様の率直な感想や気持ちを職人に伝え次の漆作りに役立てる等お客様と職人の懸け橋となります。

海外展開

練乾漆は、漆の弱みである乾燥にも耐性を持っています。すなわち海外の乾燥状態にも耐えられる性質を持っています。当社は、漆の良さは、日本だけではなく、海外の方にもぜひ知っていただきたいと思っております。当社は、海外の方が来日いただいた際に、練乾漆をアピールし、漆の良さを知っていただくことから始めていきたいと思います。特に、外国人向け商品は、持って帰ることができるサイズで商品開発を行い、その商品を通じて日本の文化を海外に発信していきたいと考えております。

幸せの記憶の中にある漆

当社は、通常の漆器の商品開発は積極的に行ってきませんでした。しかし、当社が、これまでいろいろな商品開発や漆に対する考え方を発信した結果、当社のファンも少しずつ増えてきました。当社は、当社のファンの方の幸せの記憶の中にはいつも漆があることを目指し、新たな商品開発を行っていきます。具体的には、幸せの記憶をとどめる癒しの漆や大切な人との思い出をとどめる漆など、人の思いが漆に込められている商品を開発します。

6．～代表者（引持力雄　雅号：伯楽）からのメッセージ～

漆の産地に生まれ育ち、気が付けば40年近く輪島塗に携わってきました。

日本が未曾有の災害からの復興に向って一丸となっている時「JAPAN」と呼ばれる漆器業界に身を置くものとして再生への思いを強くしています。この度、当房の設立から今後の課題までを知的資産経営報告書にまとめていただき、新たな展開への契機となりました。商品開発にあたっては「時代にあった本物」を念頭におき、輪島の漆人の気概と共に伝承されてきた確かな技術を次世代に伝えるべく新しいものづくりに取り組んでいます。御承知の通り輪島塗はすべてが手仕事で、布着せ・地の粉下地の伝統的な本堅地工法を伝承する産地です。「技術も高いが価格も高い」産地にあって当房では下地から上塗まで完全一貫生産体制によるコスト削減を実践しています。木地に依存しない独自技術「練乾漆」を応用してお手持ちの漆器をバージョンアップするリメイク漆器もご提案させていただいております。「練乾漆」は麻布を素地とし、地の粉を練り込んだ漆で自由に造形でき海外の乾燥した環境にも強い点から海外販路開拓にも挑戦しています。今後は楽工房の知的資産をフル活用し「幸せの記憶の中にいつも漆があるように」をテーマに漆の魅力を伝える商品を開発し「楽ブランド」を確立していきたいと考えています。

昭和29年　輪島市に生まれる。
輪島実業高校木材工芸科1期生として卒業後、
元岡清斉氏に師事。
下地・上塗技術を修得し、独立。
茶道具製作に携わりながら
あそび心ある作品の創作をはじめ、
平成2年「ぬり工房　楽」設立。
平成11年　輪島市美術展　輪島商工会議所会頭賞　受賞
「虹」盛器
平成12年　輪島市美術展　輪島市長賞　受賞
「曙」喰籠
平成13年　輪島市美術展　輪島漆器組合理事長賞　受賞
「夕映え」盛器
松瑞芸術作家協会松瑞展　金賞　受賞
「欅」水指
平成14年　大阪工芸展クラフト部門　入選
「竹」水指
松瑞芸術作家協会松瑞展　銀賞　受賞
「四季」香合
輪島市美術展　輪島市議会議長賞　受賞
「瓢箪」盛器
平成15年　大阪工芸展美術工芸部門　大阪府知事賞　受賞
「まんてん」矢筈盛器
松瑞芸術作家協会松瑞展　銀賞　受賞
「鷹」香合
平成16年　大阪工芸展美術工芸部門　入選
「鷹」床飾り
松瑞芸術作家協会松瑞展　無鑑査
「まんてん」六角花器
平成17年　大阪工芸展美術工芸部門　大阪府知事賞　受賞
「祈　1.17」喰籠
平成18年　大阪工芸展美術工芸部門　無鑑査
平成19年　大阪工芸展美術工芸部門　無鑑査
「心眼」八角喰籠
平成20年　大阪工芸展美術工芸部門　無鑑査
「銀河」盛皿
平成21年　大阪工芸展美術工芸部門　無鑑査
「ハハコグサ」菱皿
平成22年　大阪工芸展美術工芸部門　一圭賞　受賞
「施楽光明」盛器

７．作成支援士業コメント

中小企業診断士西井　克己

当社は、オリジナル技法「練乾漆」を確立し、まさしく素地から塗りまでの一貫生産体制を構築しております。そして、その練乾漆は、漆の弱みである乾燥にも耐性を持っています。このことは、漆文化を海外に発信する際に大きな強みになるといえます。

当社は、本堅地技法を修得し、練乾漆技法を創り出した代表、蒔絵の技術を修得した上で練乾漆を担当する職人など、確かな仕事を行う職人と、持ち前の明るさでいろいろなネットワークを形成し、当社の情報を積極的に配信する代表配偶者が機能して始めて力を発揮していると思われます。

「練乾漆」を皆さんに知っていただくために、当社は修繕のみならずリメイクやリユースを強化し、修繕、リメークという切り口から「練乾漆」を周知することを期待します。また、北陸先端科学技術大学院大学伝統工芸イノベーターユニットで出会った伝統工芸の活性化に対し熱き思いを持つ仲間とともに、「練乾漆」ならではの商品を創り出すことを期待します。

行政書士　勝尾　太一

ぬり工房楽が確立した木地の形状に依存することなく，自由な造形を可能とする練乾漆の技法は，他の工房との差別化要因として，顧客価値の創出に大いに寄与する資産です（構造資産）。もっとも，この技法が構造資産としてより，当工房の価値創出や具体的な売上に寄与するためには，「ぬり工房楽」をより多くの方々に知っていただく努力を継続的に行うことが重要となってきます。その方策の一つとして，自社におけるブランディングを，今一度，再確認することがあげられます。伝統の本堅地技法を用いて創られる製品，練乾漆の技法を用いて創られる製品，身近に漆を感じ取ってもらえる製品などの商品群を整理し，よりきめ細かな商品開発につなげることが考えられます。当工房は，問屋を介さず，直接お客様と取引をする仕組みが調っており，職人ではない当工房代表配偶者が，直接お客様との対話を通じて得る種々の情報を得ることができます（人的資産）。これは，職人の工房にあって貴重です。このように情報を直接得ることが，新たな企画を立案することに寄与し，その企画の趣旨をダイレクトに職人に伝え（職人との対話も期待できる。），一貫生産体制の下これを新しいもの作りに反映する，そしてまたお客様との対話により新しい情報を得るという“循環”を行うことが可能な体制にあります（構造資産）。自社の商品群を整理することにより，お客様に提供できる価値の見直しに繋がり，情報を得る場面や，企画の場面においてより高い成果が期待されます。今後，積極的に商品開発に取り組もうとする「ぬり工房楽」にとってブランドという構造資産の強化と，情報収集から製造までの循環という構造資産の強化が，全体の価値を高める際のポイントになると考えられます。“幸せの記憶の中にいつもある漆”を目ざし，更なる発展に期待いたします。

弁理士　横井　敏弘

ぬり工房楽（以下、当社）は、地域から継承した輪島塗の伝統技法と、アーティストとしての技量と、新規な技法を開発する発想力を強みとして、様々な商品・サービスを提供してまいりました。新技法「練乾漆」を活用した多様な立体形状からなる作品、伝統技術による確かな修理、新技法を活用したリメイク、などです。

「修理」については、単なる現状回復として捉えるのではなく、高い伝統技術によるバージョンアップであると考えております。このような「修理」を通した新たなファンの開拓も有望であり、新たなビジネスモデルとも言えます。「リメイク」は、単に「修理」の延長線上にあるのではなく、新技法の導入によって、広い可能性を有しております。「リメイク」の具体的な活用事例を蓄積することによって、リメイク事業も新たなビジネスとなるものと考えております。

当社は、このように、伝統技術（伝承されてきたノウハウ）と開発力（イノベーション）に立脚し、成長の大きな可能性を有しております。可能性が大きく、フィールドが広いため、ブランドをうまく使い分ける必要があるかもしれません。

伝統技術と開発力で、確かな成長を遂げられることを期待しております。

８．知的資産経営報告書とは

【意　義】

「知的資産」とは、従来のバランスシートに記載されている資産以外の無形の資産であり、企業における競争力の源泉である人材、技術、技能、知的財産（特許・ブランドなど）、組織力、経営理念、顧客とネットワークなど、財務諸表には表れてこない、目に見えにくい経営資源、すなわち非財務情報を、債権者、株主、顧客、従業員といったステークホルダー（利害関係者）に対し、「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動（価値創造戦略）として目に見える形で分かりやすく伝え、企業の将来に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。経済産業省から平成17年10月に「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表されており、本報告書は原則としてこれに準拠して作成いたしております。

知的資産のイメージ

【注意事項】

本知的資産経営報告書に掲載しております将来の経営戦略及び事業計画並びに附帯する事業見込みなどは、すべて現在入手可能な情報をもとに、弊社の判断にて記載しております。そのため、将来に亘る弊社を取り巻く経営環境（内部環境及び外部環境）の変化によって、これらの記載する内容などを変更する必要を生じることもあり、その際には、本報告書の内容が将来実施又は実現する内容と異なる可能性もあります。よって、本報告書に記載した内容や数値などを、弊社が将来に亘って保証するものではないことを、充分にご了承願います。

この知的資産経営報告書は、石川県が株式会社迅技術経営に委託した石川県民間提案型継続雇用創出事業「伝統的工芸品産業事業者の魅力を伝える知的資産経営報告書作成事業」により作成いたしました。